

## 1 「本質的な問い」による単元構想について

- 「説明文を学ぶよさは何だろうか？」という本質的な問いを設定し、動物の紙芝居を作成する活動を展開することで、児童が自然と説明文を学ぶよさを感じることができた単元構成となっていた。
- 単元を貫く問いとして、「ビーバーの巣作りは本当に大工事なのだろうか」と設定したことで、「本当に大工事かどうか」を考えながら、主体的に教材文を読み進めていくことができた。導入部で本文を一読し、疑問に思ったことをノートにまとめる活動を取り入れたことで、単元を貫く問いを児童から引き出すことができた。そして、児童の疑問を取り上げて学習を展開していくことで、単元を通して主体的な学びを促進することができた。
- 文章中の「言葉」に着目させる問いかけをすることで、児童が教材文の叙述を根拠として考え、単元の目標を達成することへつながった。
- 一問一答形式になる場面があったため、児童が主体的に対話し、思考を広げたり深めたりすることができるよう、発問を吟味する必要がある。

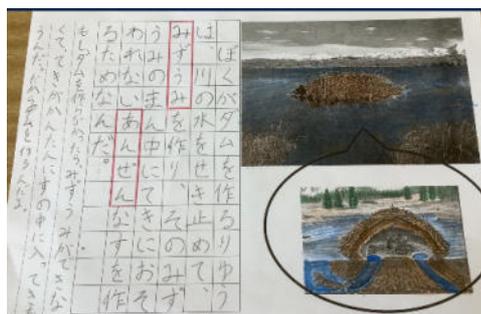
## 2 単元で育成を目指す資質・能力について

## 【思考・判断・表現】

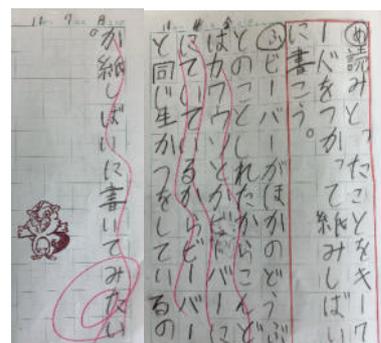
- 本単元学習前の「たんぼぼのひみつ」で、読み取ったことをまとめる学習では、重要な語や文を選び出すことができていた児童が59%であったが、本単元の単元末に行った紙芝居にまとめる学習では、77%であった。1時間ごとの児童のノートの記述(①)から、単元を通して重要な語や文を探す活動を取り入れたことによって、重要な語や文を文章から見付け、順序立てて考える力や、文章を読み、分かったことや考えたことを述べる力を養うことができたと考える。
- 重要な語や文を探すことができなかった児童は23%であった。また、ヒントカードを提示する手立てを講じたことで重要な語を見付けることができたが、重要な語や文をつなぎ合わせるが出来ていなかった。今後も、児童の興味関心に基づいて、読んで理解した内容や考えたことを伝える言語活動を取り入れていきたい。

## 【主体的に学習に取り組む態度】

- 振り返りの中で、「ビーバーの紙芝居を完成させることができたので、次は別の動物の紙芝居を作成してみたい」(②)という記述が多く見られた。児童の振り返りを取り上げて、その後の学習でタブレットや図書室の本を活用して自分の調べたい動物について紙芝居にまとめる学習を行った。児童がやってみたく感じたことを基に学習を進めたことで、児童の主体的な学びにつながった。



① 児童の記述



② 児童の振り返り

## 3 「デジタル機器」の活用

- 「ビーバーがダムを作る場合と作らない場合では、どのような違いがあるのか」という問いを考える際に、教師自作のダムがない場合の挿絵とダムがある場合の挿絵(教科書の資料)をタブレットに提示した。さらに、ビーバーにとって敵であるオオカミを自由に動かせるようにすることで、ダムがないと敵が巣に入りやすくなってしまふことを気付かせることができた。
- タブレットに気付いたことを記述する活動を取り入れていたが、第2学年の実態では、タブレットに記述することが難しく感じている児童もいた。学年や児童の実態に応じた記述方法を考える必要がある。